

令和4(2022)年度 病害虫発生予報 第8号

令和4(2022)年11月18日
栃木県農業環境指導センター

病害虫の早期発見に努め、適切に防除しましょう！

予想期間 11月下旬～12月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない(平年比26%：ほ場率、平年比17%：株率)。(－)
- ・ 向こう1か月の降水量は多く、日照時間は平年並～少ない見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・ 日照不足等で、株が軟弱徒長すると発生しやすくなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
- ・ 予防を主体に、フルピカフロアブル(RACコード F:9)等を使用する。曇雨天時にはくん煙剤を使用する。

2 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(平年比69%：ほ場率、平年比41%：株率)。(±)
- ・ 向こう1か月の気温は高く、日照時間は平年並～少ない見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
- ・ 化学農薬に対する感受性低下が起こりやすいため、必ずローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しにくい気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
- ・ 天敵導入時にハダニ類が多いと失敗しやすいので、天敵導入前に気門封鎖剤や天敵に影響の小さい薬剤を散布し、ハダニ類の増殖を抑制しておく。
- (4) 備 考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

3 トマト すずかび病

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い(平年比127%：ほ場率、平年比186%：葉率)。(＋)
- ・ 向こう1か月の気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並～少ない見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・ 施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、結露防止に努める。
- ・ 発病葉は伝染源となるため、発生初期に速やかに取り除き、施設外で処分する。
- ・ 予防を主体にベルコートフロアブル(F:M07)等を葉裏によくかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・ [すずかび病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

4 トマト コナジラミ類(黄化葉巻病(TYLCV)を媒介)

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は多い(平年比181%：ほ場率、平年比380%：葉率)。(＋)
- ・ 向こう1か月の気温は高く、日照時間は平年並～少ない見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ ウイルスを媒介するタバココナジラミの侵入を防ぐため、ハウスの開口部(出入り口、側窓、天窗)に0.4mm目合以下のネットを張り、特に出入り口は二重にする。
- ・ 黄色粘着板の設置によりコナジラミが見られた時はディアナSC(I:5)等を散布する。
- ・ 発病株は伝染源となるので、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
- ・ 耐病性品種であっても、本病に感染すると伝染源となるため、感受性品種と同様に適正な防除をする。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo.22](#)、[タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

5 きゅうり べと病

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い(平年比116%：ほ場率、平年比180%：葉率)。(＋)
- ・ 向こう1か月の気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並～少ない見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・ 施設内が多湿にならないよう適切な換気を行うとともにかん水量に注意する。
- ・ 草勢低下は発生を助長させるので、適正な肥培管理を行う。
- ・ 予防を主体にランマンフロアブル(F:21)等を散布する。

(4) 備考 ・ [べと病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。

6 きゅうり コナジラミ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い（平年比 144%：ほ場率、平年比 905%：株率）。（+）
・ 向こう 1 か月の気温は高く、日照時間は平年並～少ない見込み。（±）
- (3) 対策 ・ 高密度になると防除が困難になるので、ほ場内に黄色粘着板を設置する等、早期発見・早期防除を行う。
・ 薬剤感受性の低下を避けるため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
・ 施設内外を除草するとともに、ハウスの開口部に 0.4mm 目合以下のネットを張る等の耕種防除を徹底する。
- (4) 備考 ・ タバココナジラミは退緑黄化病 (CCYV)、オンシツコナジラミは黄化病 (BPYV) を媒介する。

7 にら アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並（平年比 74%：ほ場率、平年比 28%：株率）。（±）
・ 向こう 1 か月の気温は高く、日照時間は平年並～少ない見込み。（±）
- (3) 対策 ・ 雑草はアザミウマ類の増殖源となるので、ハウス内外の除草を行う。
・ 早期発見に努め、密度が低い時点でスピノエース顆粒水和剤 (I:5) 等を散布する。

8 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
いちご	灰色かび病	少	やや少	にら	白斑葉枯病	少	やや少
	アブラムシ類	やや少	やや少		乾腐病	平年並	やや多
	コナジラミ類	平年並	平年並	きく	アブラムシ類	やや多	やや多
トマト	灰色かび病	少	やや少		ハダニ類	平年並	平年並

秋の病害虫防除対策

○イネ 縞葉枯病

- 縞葉枯病が発生したほ場の再生稲（ひこばえ）は、媒介虫のヒメトビウンカの増殖源と縞葉枯ウイルスの獲得源になります。早めに丁寧な耕起を行いましょう。

○トマト・なす等 トマトキバガ

- 令和 3 (2021) 年 11 月、外来害虫の本種が国内で初確認されました。令和 4 (2022) 年 11 月現在、11 県で発生が確認されています。栃木県における発生は確認されていませんが、飛翔による分散や苗類等を介して本県での発生が懸念されます。発生が疑われる場合はお近くの農業振興事務所、又は農業環境指導センターへ御連絡ください。
- [「トマトキバガに注意！」](#)を当センターHP に掲載中です。

○果樹の整枝・せん定作業時には、罹病枝除去に留意しましょう。

○薬剤防除では、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

○令和 4 年 11 月から令和 5 年 1 月まで、「栃木県農薬危害防止運動」を実施中です。

農薬は適正に管理し、容器のラベルをよく読み、農薬による事故等の発生を防止しましょう。

1 か月気象予報（予報期間 11 月 19 日から 12 月 18 日 11 月 17 日気象庁発表）

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。平均気温は高く、降水量は多く、日照時間は、平年並か少ない見込みです。

向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)

項目	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	30	60
降水量	20	30	50
日照時間	40	40	20

詳しくは農業環境指導センター (TEL 028-626-3086) までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。

